

News Letter

VOL.3
2016年7月号

「ベビーシッター割引券」の利用申し込みについて

7月8日より利用が可能となりました。(マリアンナネット「お知らせ」7/12掲載)

教職員の「仕事」と「家庭・子育て」の両立支援のため、ベビーシッター費用の一部補助の制度を導入しました。これは内閣府が実施し、「公益社団法人全国保育サービス協会」が委託を受けて行う、「ベビーシッター派遣事業」を利用して実施するものです。ベビーシッター派遣事業内容としては、通常分と多胎児分があります。

【利用期間】 平成28年7月8日～平成29年3月31日まで

【利用対象者】 教職員・パート者は、日本私立学校振興・共済事業団加入者に限る
※男女は問いません

詳細について、「マリアンナネット」事務tab人事部の福利厚生内に掲載しています。
あわせて、利用できるシッター情報については、

全国保育サービス協会 <http://www.acsa.jp/htm/howto/>
をご覧ください。

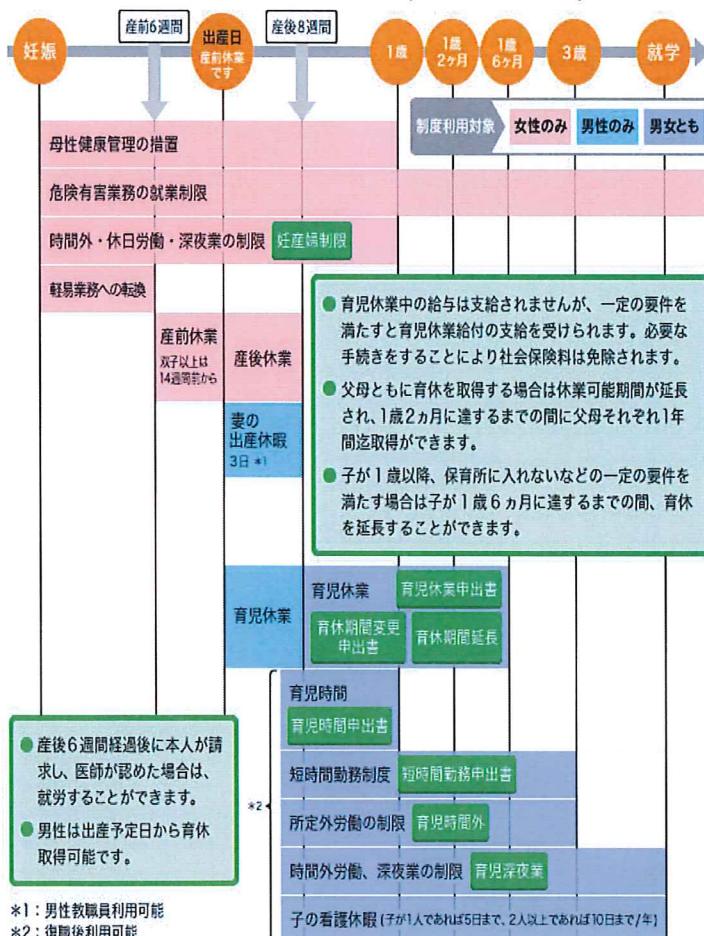


「保育・介護支援ガイド」の配布

妊娠・出産・育児、介護などの制度を理解いただくために、制度の種類、手続きの方法などを分かりやすく説明したガイドブックを、各部署へ配布します。

シッター費用補助制度の利用方法についても掲載しますので、利用申し込みをする場合はご確認ください。

利用できる制度【妊娠・出産・育児】(ガイドブック掲載)



「くるみん」取得しました！

5月18日付けで神奈川労働局より次世代育成支援対策推進法(第13条)に基づく基準適合一般事業主に認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。

神奈川県内の医学系大学では、初の認定となります。

「次世代育成支援対策推進法」は、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境を整備するため、2005年4月1日から施行されています。

「くるみんマーク」の利用については、一定の条件がありますが、名刺やパンフレットなどへ掲載していただき、「子育てサポート企業」として認定を受けていることをアピールすることができます。



「くるみん」認定マークについて
「くるみん」は厚生労働省の一般公募により決定したマークで、赤ちゃんが大事に包まれる「おくるみ」と、子どもがやさしく「くるまれている」という温かい印象、「職場ぐるみ・会社ぐるみ」で子供の育成に取り組もう、という意味が込められています。

「サン・オリバ」

男女共同参画キャリア支援センターの通称名を、「サン・オリバ」に決定しました。

《名前の由来》

サン:

①【スペイン】・【イタリア】San キリスト教用語で、聖人のこと

②【sun】太陽

オリバ(オリーブ イタリア語でOliva):

①ノアの箱舟 オリーブの木は平和を表す

②ギリシャ神話 オリーブは『聖なる木』



「子育てに関するアンケート」 集計結果概要

平成28年2月1日現在で、小学校6年生までのお子さんをお持ちの教職員(産休・育休中の教職員を含む)を対象に、「子育てに関するアンケート」を実施しました。皆様より多くの意見を頂く事ができました。集計結果の概要について報告いたします。(HPに掲載しています。)

お子さんをお持ちの教職員に対して、子育ての現状の把握をし、保育支援のニーズ(院内保育園の運用、ベビーシッター費用補助)の検討をするために、平成28年2月1日現在で小学校6年生までのお子さんをお持ちの教職員(産休・育休中の教職員を含む)へ、アンケートを実施いたしました。
アンケート結果の概要は次に示したとおりとなります。

- お子さんの年齢が高くなるほど、就労している割合が減少している。子どもを持つ女性の就労継続が困難であることが分かった。
- 核家族が多く、日常的にお子さんをみてもらえる親族がいない世帯が多いことが分かった。
- 保育施設などの利用者のうち、平均的な時間が1日あたり10時間以上とするものが29.8%であった。また、利用する保育施設は自宅近くが71.5%、通勤途中17.5%、勤務地近く9%であった。利用していない理由は、父母のどちらか(特に仕事をしていない母親と思われる)がみているケースもあるが、幼稚園、保育園に空きがない実態もある。
- 小学校のお子さんの場合は、平日はほぼ毎日学童を利用しており、午後8時までのケースもある。
- 土日祝日の就労時には、父母のどちらかあるいは親族(同居・別居ともに)が見ているケースが多いが、こどもだけの留守番も多かった。
- 当直や宿泊を伴う出張などの場合は、同居の家族がみているケースが多かった。この場合は、家族としての休日が無い不満があげられている。
- ベビーシッターの利用者はまだまだ少ない。職種別では教員の利用が多い。
- 子どもが病気やケガで登園や登校できないときの 病児・病児後保育利用は、定員の関係か、利用は少ない。親が休む、親族(同居、別居)が看るケースが多い。「子どもが病気の時は親が看るべき」といった意見と、「病児保育の拡充」を求める意見が分かれた。
- 意見が分かれた質問

	利用したい	利用しない
31.就業時の土曜・休祝日の日中対応について、臨時一時預かりができた場合	41.5%	28.0%
33.就業時の夜間対応について、24時間保育や夜間の臨時一時預かりができた場合	16.9%	42.9%
36.子どもが病気の時、院内保育施設利用あるいは、院内で臨時病児預かりの支援ができた場合	53.5%	20.5%
38.ベビーシッター費用補助の利用	28.3%	29.9%

10. 制度の理解

	知らない	
40.産前産後休暇制度	5.0%	(M22,F9)
41.育児休業制度	5.9%	(M26,F10)
42.短時間勤務制度	8.6%	(M36,F17)
43.子の看護休暇制度	56.6%	(M133,F214)

11. 妊娠の報告のためらい、マタニティハラスメントやパタニティハラスメント(マタハラの男性版)などについては、ハラスメントの具体例の提示、支援制度の周知や啓発および相談体制などの対策が必要。

【アンケート実施数】

対象	配布			回収				不明	合計(%)
	男性	女性	合計	男性(%)	女性(%)	合計(%)			
1研修医・大学院生	19	6	25	6	31.6%	9	150.0%	15	60.0%
2教員	239	60	299	93	38.9%	31	51.7%	124	41.5%
3看護職	51	342	393	27	52.9%	245	71.6%	272	69.2%
4コメディカル職	78	65	143	43	55.1%	48	73.8%	91	63.6%
5事務職	43	65	108	32	74.4%	55	84.6%	1	81.5%
6その他	0	21	21	2		22	104.8%	24	114.3%
7不明						1			1
合計	430	559	989	203	47.2%	411	73.5%	615	62.2%

●回収率が100%以上の職種については、職種的回答に誤りがあったと思われる。

【アンケートから見えた現状】

核家族が多いことから、所定労働時間の短縮措置の期間については「小学校6年生が終わるまで」の希望が多い。また、時短勤務にもかかわらず人員不足、業務多忙により超過勤務となることへの不満が多くあげられた。柔軟な勤務体制の導入の検討とあわせて、職種、職場によって満足度やストレス度が大きく左右されことなく、また子育て支援の充実が勤務の強要とならないよう、各部署においては個々の環境を充分に把握し、様々な働き方をマネジメントして業務を円滑に遂行することが求められる。子育ての世代には共働きが多く、父母が休日をやりくりしていることから、家族の休みが無いことへの不満にも繋がっている。

このたび本学は、神奈川県内の医学系大学で初めて「くるみん」が認定された。今後も子育て支援や制度の利用推進と、マタニティハラスメント・パタニティハラスメントにより不利益な取り扱いがない職場環境を継続して整える必要がある。さらには子育て支援を事業として捉え、現在の子育て世代のみならず、これから子育て世代へのアプローチが重要である。

政府の「新三本の矢」の第二の矢に掲げられている「夢をつむぐ子育て支援」が本学においても実現し、教職員のモットーとなるよう、取り組まなければならない。



「第1回女子医師意見交換会」平成28年6月17日(金)開催

平成28年6月17日(金)開催の「女性医師意見交換会」は、研修医4(他施設2名を含む)、医師11、看護師3、コメディカル1、事務等10、合計30名の参加がありました。職種も様々ですが、年齢も20代から60代まで、幅広く参加いただきました。

三宅学長(男女共同参画キャリア支援センター長)の挨拶に始まり、明石副センター長からは「くるみん」取得とセンター活動の報告がありました。

保育介護支援部会の藤谷委員からは子育てアンケート集計、ベビーシッター費用補助、子育て支援の課題などを報告いただきました。

ロールモデル 救急医学(西部病院) 北野夕佳医師からは「子育て中 救急/集中治療医から ワークライフバランスをイメージから現実に変えるための二提言」という講演内容で、「忙しいからこそ『親業』と『家事業』を別に考える。「家事業」は サボる・手を抜く。「親業」はサボらない。」という最後のメッセージは、子育て中のお父さん、お母さんにはグッとくる言葉だったのではないでしょうか。アンケートでは「今後の業務に役立てたい」、「マンパワー不足の解消や日常業務の見直しに大変有益な内容だった」、「他の職種においても充分活かせる内容だった」と、大変好評でした。

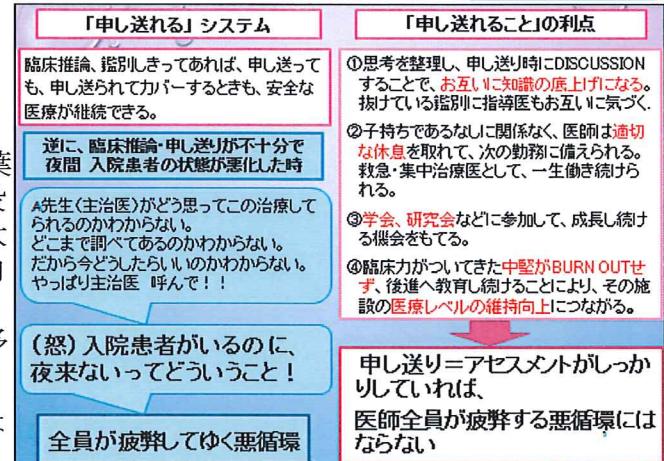
交流会は30分の予定でしたが、1時間オーバーするほど多くの意見を交わして頂きました。

お子さんとご一緒に参加もあり、小さなお子さんが会場をちらちらと歩いている、大変ほほえましい会となりました。

今後も継続して様々な内容で実施しますので、お気軽に参加ください。



北野夕佳医師
↓講演PPより



ロールモデル紹介

今回は、看護師Nさんの紹介です



★家族★

《勤務》病棟看護師、7月に第3子を出産して、現在産後休暇中

《家族》夫(臨床工学技士)、長男(小学3年生・9歳)、次男(保育園年長・6歳)、長女(0歳)の5人家族。
実家はともに遠方のため、夫と二人で協力して子育てをしています。

★仕事と家庭について工夫していること★

思うように両立できない事に悩みましたが、ワーキングマザーの方たちとのつながりを持てたことで、悩んでるのは自分だけではない事を知り、前向きになれました。また、何より、夫や職場の理解と協力があるからこそ、仕事を続けられています。仕事だけではなく、学校や保育園の行事等の日程なども家族間で共有し、勤務調整をしています。家事も時短を心がけ、家電やあらゆる物をフル活用です(食器洗浄機、衣類乾燥機、ロボット掃除機、宅配サービス、冷凍食品、お惣菜など)。子供にも、自分の事は自分でできるように教えています。

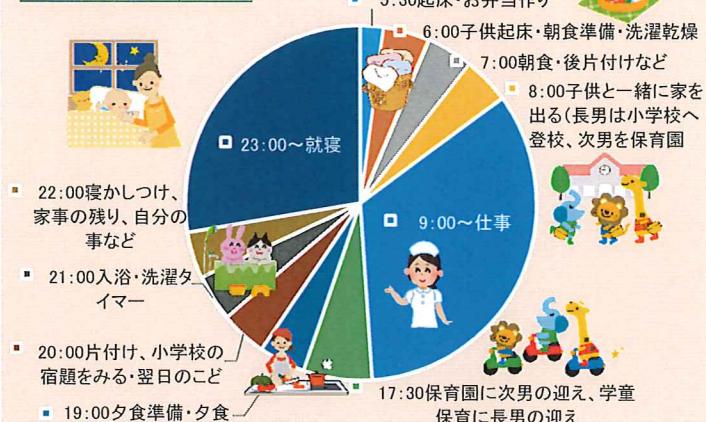
★モチベーションが下がった時★

一人で抱え込まずに、家族や先輩に相談します。また、子供の笑顔が元気をくれます。毎日子供に「大好き♡」を伝えています(ぎゅっと子供を抱きしめ、「離れていても心は近く、今日も一日力をあわせて頑張ろう!」)が毎朝の合言葉です)。

★後輩へのメッセージ★

育ててはハピニングの連続。自分の思うようにいったら奇跡です。誰もがママ1年生。子供と一緒に自分も成長し、親になっていきます。自分の命をかけて生んだ、大切な子供の命です。全てがうまくいかなくても、「仕事も、子供も愛してる」と胸をはって、今しかない時間を、思いっきり楽しんでください。これから結婚・妊娠・出産をする人のためにも、また、支えてくれる方々のためにも、自分達自身がロールモデルとなるように頑張って仕事を続けています。ですから、何でも相談してみてください。職種を越えて、みんなが一人のために支える職場が、ここにあります。

★産休前の平日★



●男女共同参画キャリア支援センター●

事務局044-977-8111(内線5840)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp